

会員のページ

【受賞のお知らせ】

橋本壽正元会長 文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）受賞

平成 24 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）を東京工業大学大学院卓越教授、橋本壽正氏が受賞されました。開発部門は、我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与し、実際に活用されている画期的な研究開発若しくは、発明を行った者を対象とした部門です。受賞業績名は、「温度波を応用した薄膜の熱物性測定法の開発」で、温度波を用いた熱解析法の基礎の確立から、装置化、ベンチャー起業、国際標準化までの一連の業績を評価されたものです。まさに、橋本先生の研究室で 20 年以上にわたり、研究・開発されてきた成果のひとつであり、研究室は、喜びに湧いております。

橋本先生の科学技術に対する卓越した先見性は周知のとおりですが、本測定法に関する最初の特許は、温度変動熱分析装置を初めて市販化した米国の装置メーカーの初期の特許に引用されていることは、あまり知られておりません。熱分析、熱物性計測の分野で、交流で測定する手法が世界の中でも先進性があった時期に、培われたアイデアは、それを実証する綿密な実験とともにデータブックが出版されましたが、しかし、測定法は産業界に普及し、実際に使われてこそ意味がある、との理念のもと、超小型・ポータブル・省エネルギー型・フルオートマティックの今日の装置開発に至るまで、約四半世紀を費やしながらか、その理念は揺らぐことはありませんでした。現在では、100 台以上の装置が産業界を中心に稼働し、国際標準もすでに発効から最初の改訂を終えております。

これら、一連の研究・開発のなかで、日本熱測定学会は、常に研究発表の母体として、多くの良き理解者に恵まれ、今回の朗報を受けましたことに、卒業生一同ともに、ここに、本学会への厚い感謝の意を添えて、橋本先生の受賞をご報告させていただきます。

(東京工業大学 森川 淳子)



【著書紹介】

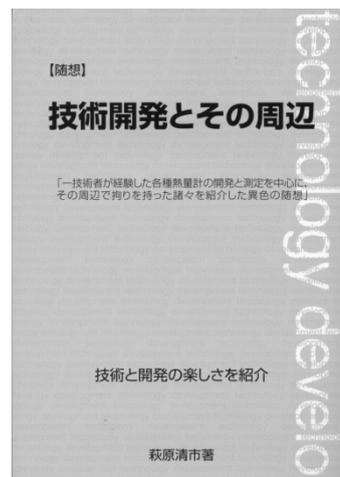
萩原清市 著「技術開発とその周辺」

この本は、本会で活発に研究発表をされてきた静的熱量計メーカー（株）東京理工の萩原清市氏が社長から会長へ退かれたことを機に、自らの技術史と熱測定分野について思うことを随想として書かれ自費出版されたものである。萩原氏はこれまで多くの熱量計開発を手掛けられており、本の表紙には随想と銘打ってあるものの、熱量計ユーザーにとっては大変ありがたい熱量測定装置と測定法に関する技術情報が満載されたものとなっている。また、企業家としてどのようなきっかけで東京理工を立ち上げられたか、小企業でありながら安定的な経営をどのようにして続けられたのか、小企業の意地と処世術とでも言うたらよいであろうノウハウも随所に書かれ、これから就職する学生や企業・研究機関で働きながら独立を考えている技術者・研究者にとってバイブルとなるように思える。

企業の方らしく関係者に配慮されているものの、研究者が企業に装置を注文してから納品後の技術サービスまでの間の勝手な研究機関や研究者側の対応やメーカーが心血を注いで製作した装置を研究機関があまり活用せずとも簡単に廃棄することなども嫌味ない淡々とした文体で書かれており、時に苦笑し、反省しながらも楽しく読み進める内容である。会員減少で苦闘する本会が測定手段の学会ゆえ抱える本質的な問題についても考えが述べられており貴重な提言と受け止められる。

後半には、萩原氏がこれまで多くの研究者とのお付き合いで得た人生経験や成果について感謝の意を込めて触れられている。この紹介記事を書いている筆者との関わりも書かれ、あたかもスーパーマンのように評されておられるが、これだけは見識が高く人を見る目が確かな萩原氏の唯一の見誤りであろう。以上のように孤高の技術屋さんの一風変わった随想であるが、この分野の会員にはきっと興味深いものと思われる。（株）東京理工から 1,500 円+税で購入可能とのことである。

(東京電機大学 小川 英生)



【随想】

技術開発とその周辺

「一技術者が経験した各種熱量計の開発と測定を中心に、その周辺で抱いた諸々を紹介した真色の随想」

技術と開発の楽しさを紹介

萩原清市著